



二俣川小だより



横浜市立二俣川小学校 令和2年9月25日
10月号 発行責任者 校長 泉 太郎



令和2年度の折り返しに

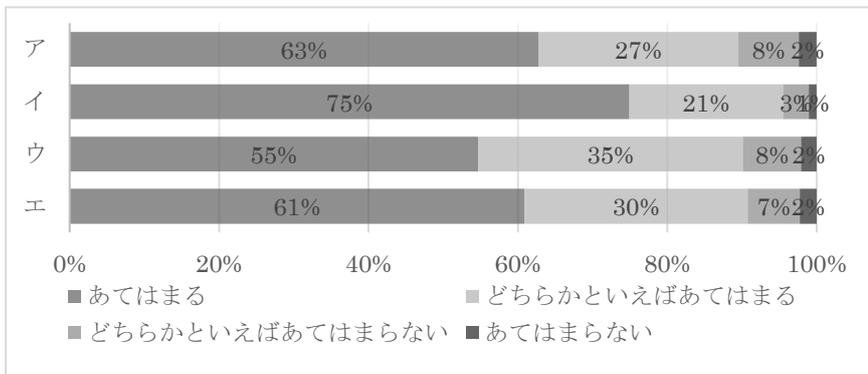
副校長 船木 淳

ようやく暑さもおちつき、放課後はあっという間に日が落ちるようになりました。秋分。夕闇に包まれた職員室では、今日もにぎやかに、子どもたちの様子について語り合う職員の姿があります。

本校では今年度から魅力ある学校づくりをめざして、従来の校内研究とは切り口を変え、子どもたちの実態をもとにして学年ごとに目標と行動計画をたてることで、学力向上と自己有用感の育成に取り組んでいます。学年の教員が協力し、常に情報を共有し、同じビジョンをもって指導に当たることは、子どもたちの自己実現のために欠かせないことだと思います。もちろんクラスごとの個性も大切ですが、

具体的な手順は、次のとおりです。

- 1 子どもたちに全校共通のアンケートを取り、実態をとらえる
- 2 学年で結果を集約・分析し、目標と目標達成のための行動計画・手立てを考える
- 3 各学級で、実践する
- 4 実践した取組が目標達成につながっているか、期待した成果を上げているかを点検し、計画を見直す
- 5 1～4のサイクルを繰り返す



子どもたちに問う内容は

- 「ア 学校は楽しいですか」
 - 「イ みんなで何かをするのは楽しいですか」
 - 「ウ 授業に進んで取り組んでいますか」
 - 「エ 授業の内容はよくわかりますか」
- の4つ。それぞれの質問に対して4段階で答えて、集約して学年ごとに分析しました。

左のグラフは、全校の集計結果です。

どの項目も、9割以上の子が肯定的な回答をしています。想定外の良い数値でした。

学年ごとの集計結果には、その学年の特徴が表れており、教員の見取りと合わせて課題も明確になりました。課題解決に向けての行動計画は、授業展開や板書などに焦点を当てる学年や仲間づくりに重点を置く学年など、それぞれが工夫し、アイデア豊かに取り組んでいます。ここに学年別グラフは掲載できませんが、俯瞰すると「ア」と「エ」には相関関係があることも見えてきました。

この取組のために、週1回ほどだった放課後の学年での話合いの時間を、今年度は最低でも2回とれるようにしています。年度の折り返しを迎える今、本来なら1度目の実践と検証を終え、2サイクル目に入って新たな手立てを立てて取り組みを始めているべき時期。しかし学習のスタートが遅れたために、ようやく1度目の実践が軌道に乗り始めたところです。

毎日のように子どもたちの様子を伝え合う職員をみると、放課後の情報共有の中から未来へのヒントが生まれ、実践されていることを実感します。春分まで半年。実り多い後期となりますように。